



テーラーメイド医療

20世紀の終わりにヒトの遺伝子配列の概要が解明され、医療業界でも、その成果を利用する試みが進むなか、テーラーメイド医療に関する議論が高まり、注目を集めています。

テーラーメイド医療とは、遺伝子情報を活用して個人の体質の違いを解析し、それぞれに応じた医薬品や治療法を選ぶ手法のことで、オーダーメイド医療とも呼ばれます。

現在は、同じ症状をみせる患者に決まった薬を一定量投与するレディメイド医療が主流となっています。レディメイド医療では、患者にまず1つの薬を投与し、それが効かなかった患者には別の薬を投与するといった治療を繰り返して最終的に合った薬を見つけています。このため、体質に合わない薬を投与した場合、薬の効果が現れない一方、副作用だけが現れるというケースもしばしばみられます。

テーラーメイド医療が普及すれば、患者の体質に合わせた医療を行うため、治療効果が高まるほか、医薬品の副作用が軽減されること、これまで製品化が困難であった特定の体質の人にだけ効果のある医薬品についても開発の道が開けること、無駄な医薬品の投与が減少するため、医療費の抑制にも繋がるとみられること、などが期待できます。

日本では、遺伝子などに関する研究は、政府や大学などの研究機関を中心に進められてきましたが、最近では製薬会社やバイオ企業など民間企業が連携してテーラーメイド医療の研究開発を行う動きもみられます。また、欧米の製薬会社では、すでにテーラーメイド医療向け抗がん剤など一部で製品化を始めており、日本市場でも発売を開始しています。

もっとも、本格的な普及に当たっては、個人の遺伝子情報を扱う際のプライバシーの保護や厳重な管理が必要となるほか、患者の同意を得る方法の確立や倫理上の問題の解決など乗り越えなければならぬハードルがいくつか存在することも事実です。

テーラーメイド医療により、真に医療の質の向上を図るためにも、技術開発を進めるだけでなく、早急に課題解決に向けた環境整備を図ることが望まれます。

福田 将之

テーラーメイド医療とレディメイド医療の比較

	テーラーメイド医療	レディメイド医療
対象となる患者	・遺伝子情報から薬の効き目が分かっている人	・症状のある人すべて
投与方法	・遺伝子情報から最適な種類、量を決定	・同じ症状なら決まった薬を一定量
効能、副作用	・副作用の発生も予測	・有効性、安全性に個人差がある ・予期しない副作用発生の可能性がある
薬剤費	・必要な患者にだけ投与するため抑制可能	・効果がない人に投与するケースもあり増えやすい
研究開発	・副作用が原因で開発中止した薬を“仕立て直す”ことも可能 ・臨床試験に必要な症例が減り、開発コストを抑制可能	・少数の副作用が原因で開発を断念するケースがある ・開発の成功率が低い

(資料) 各種新聞記事を基に三重銀総研作成